

皮膚のアラーム

かゆみは誰でも一度ならず感じたことがあると思います。かゆみは一種の皮膚の感覚異常で、痛みより軽い知覚過敏とも言えます。おもに皮膚局所に原因するところが多く、たとえば、生のウルシに触れて起こるウルシかぶれなど、皮膚アレルギーによって引き起こされる、ヒスタミンなどの刺激伝達物質による神経刺激とされています。

また、背中の青い魚などを食べると、ジンマシンなどを起こす人がいますが、これは、食事からの個人的外敵(アレルギー源)の侵入を気づかせるアラームでもあるのです。こんな時、多くはかゆみとして感じます。

また、怒り、恐怖という感情のストレスで鳥肌が立つ時もこれに連動して刺激伝達物質が出てかゆみも生じます。自律神経も関与しているのです。

背中のかき傷の秘密

それは2月初旬の寒い午後でした。60歳にしては若く見えるご婦人からの訴えです。

「お腹が張っております。胃もときどき痛みます。胃の薬を出していただきたいのですが。来週用事がありますので、少し長めに」とおもむろに切り出されてきました。

「ご用事とは？」

「すみません。旅行なのです。ハワイへ」

旅行中に病気が悪化してはいけないという患者さん心理でもありますが、医療保険上、少し問題があるケースです。まずは一般胃腸薬として粘膜保護剤を頭に浮かべ、

「おもに痛むのはいつでしょうか」と、質問してみました。

この品のいいご婦人はそれには答えず、さらに、「背中がかゆい」と言いました。

そこで背中を見ると、たしかにかき傷と思われる湿疹が無数に出ております。

私は皮膚科の専門医ではありませんが、直感で一種の精神的なジンマシンではないかと感じました。



デルマトグラフィー

皮膚の過敏性を見る検査として、皮膚を硬いモノで刺激してみる診断法があります。“デルマトグラフィー”といい、軽い皮膚刺激を加え、その反応を見る検査です。私の場合、小指の爪を少し長くしており、この爪先で患者さんのお腹に「井」の字に線を書き刺激しました。すると見る見るうちにみみず腫れになってくるではありませんか。自律神経が乱れている証拠です。楽しいはずのハワイ旅行なのに…? そこで、ふと気になっていた質問をしました。

「この反応はストレスがあると出るのですよ。どなたとハワイへ行かれるのですか？」

ひと呼吸おいて、「実はパートナーといいますが、付き合っております男性とです」と素直にお話されました。患者さんとのラポールな関係(信頼関係)が生まれた瞬間です。

「子どもたちも社会人となり、もうわかってくれると思うのです」

どうやら、まだ子どもたちには、ハワイ旅行の件を話されていないようです。男性も妻を亡くし、現在はふたりとも独身とのこと。法的、社会的にはなんら問題はないのですが、子どもたちにいつ伝えようかと悩まれていたこと、結婚を前提にしていないこともわかってきました。

人生は一度きり

「よろしいのじゃないですか。人生は一度きり」

どこかで聞いたような台詞を言いました。そして「子どもさんたちも、きっとわかってくれるでしょう」

この患者さんへの処方として、抗アレルギー剤と自律神経調整剤、それに便秘薬を出しました。

便秘薬がポイントです。このような方は旅先での緊張で便秘になる可能性があるからです。ふたりへのちょっとした応援でした。

10日後、この女性は明るい顔で診察室に入っいらっしゃいました。

「先生、おかげさまで、かゆみもお通じも心配せずにすみました。はい、おみやげです」

いただいた袋にはハワイのチョコレートが入ってありました。

●著者プロフィール

福生 吉裕 (ふくお よしひろ)
一般財団法人博慈会 博慈会記念総合病院附属 老人病研究所所長
日本医科大学連携教授
『未病息災』(源草社) など著書多数

